2 老人保健施設で看護職が働くことの意義

1）看護婦がリーダーシップをとれる

老人保健施設でこそ看護がリーダーシップをとれる（22）

○日常業務にも専門的役割が求められる。

○病院に比べて思うように医療ができない。また医師も常勤であるが休務のことが多い。その中で看護職がリーダーとなり知識を持って介護職をリードしていく必要がある。

○専門的知識・技術・経験を持った看護職が他職種からの信頼を得て，ケアサービスを始め指導的立場にならざるを得ない。今後，高齢者施設における看護職の役割は大きく，責任あるものと考えます。

○病院と違い看護婦にかかる責任の重大さや，リーダーとしての的確な判断や指示，人間らしさなどが求められやりがいのある職場である。

○全体的，多角的な面からケアがなされるようリーダーシップをとる立場にあるのが看護職であると思う。

○21世紀は老人看護の時代と考え，老人福祉施設こそ看護職がトップをとれる時代の到来と期待しています。看護の主体性は老人福祉施設でこそ発揮されるものと考えています。

○医師の指示の下で働くのではなく，看護婦が自分で考えてチームの要として働くことに意義があると思う。

○看護婦の自主的運営可能な部分が多く，看護婦の判断が求められる状況が多いので看護婦本来の仕事ができる場だと考える。

○看護の知識と技術をもとに他の職種との間でリーダー的存在になり，入所者の健康管理をはじめとして医療補助，リハビリ看護に能力を発揮することが出来れば看護職としての地位も向上すると思える。

医師が常時いないので責任がある（4）

○現在医師の当直体制がないため，異常の早期発見・判断・連絡など医師の役目を担っている。

○医師が常時勤務していないため責任を感じ不安も多い。

○入所者は何らかの疾患をもつ高齢者なので常に急変，転倒などの危険があり医師が常時いる病院よりも非常にやりがいがある。

○病院看護と違い，自分（看護職）自身の判断力が必要な場合が多く，かなり責任のある仕事であると思う。

2）医療の専門家としての役割

疾病の管理・急変時の対応・入所者の異常の早期発見（136）

○訴えることのできない痴呆患者などは異常の早期発見のためにも看護は必要。

○高齢者，重篤な疾患を有する者もいるため，状態の把握・変化に対する処置など看護婦は必要であると思う。

○リハビリや日常生活の介助までタッチすると人数的に負担がかかり投薬の準備やバイタルチェックに時間をとられ異常の早期発見が遅れる心配がある。

○高齢者の健康の維持管理を行い，異常の早期発見をし，自立に導き，ＱＯＬを高めるナースの専門性を生かすことによって，入所者は安心感を持ち，希望の持てる療養ができるものと考える。

○看護婦の判断・観察により早め早めに対応ができるということは，入所している方々にも働いている介護職員にも安心感を与えていると思う。

○医師の指示の下，医療面をサポートし入所者の精神的安定とやすらぎを与える役割をめざします。

○慢性疾患の健康管理。

施設入所者・職員の健康管理（58）

○看護職が老健にいなければ健康管理が成り立たないと思う。

○入所者の健康管理だけでなく施設職員全体の健康にも配慮が必要であると考えます。

○疾患をもった老人の療養上の援助を行う上で専門的知識，技術を持った看護婦がいることは必須である。

○他の職種との中心にいて入所者の健康面を担うことは大切な仕事だと思っています。

家族への指導（40）

○在宅ケアをすすめる上で看護は重要な位置にあると思う。

○家庭復帰への援助。

○家族とのかかわりをもち安心して入所できるような施設にしたい。

安全管理（12）

○利用者が療養生活を安全，安楽に過ごせるように援助すること。

○事故の予防において専門分野がある。

内服薬の管理（７）

○入所者のほとんどが服薬しているため薬の管理が必要。

3）看護本来の役割がこなせる

本当の看護とは何かを見直す場（49）

○病院で働こうが老人福祉施設，特別養護老人ホームであっても，看護職としての仕事は同じではないだろうか。自分自身をしっかりと持ち，自己を失わずケアとキュアに当たってゆくことが大

切だと思う。

○病院で指示待ちをしていた看護から老人の自主性を引き出す看護の大切さがわかり，看護職本来の看護実践ができる場として意義づけられてきた。

○病院では十分できなかった看護ができる場所である。

○病院での急性期看護では経験しうることもなかった職員の根気と愛情が，限界と思える入所者のＡＤＬを向上させる可能性があることの喜び。

○看護の基本的な援助が出来ることに看護婦としてやりがいが持てる。

○看護婦の役割のケアとキュアの両方を発揮できる場としてやりがいがある。

ひとりひとりのゴールを考えて看護ができる（46）

○専門的な知識や技術により病気や状態像に添って目標をもってリハビリテーション的な考え方や方法による指導や援助ができることにあると思う。

○入所者ひとりひとりのゴールを考えて，本人，家族，福祉，看護，介護が一緒になって考え援助する。こんな考え方で看護職が働くことは今までになかったと思う。看護と介護が同じ位置に立って共に協力して介護できれば素晴らしいと思う。

○人生の終焉に近づいている人々にその人らしく過ごしてもらうため，日々看護（援助）していくことはとてもやりがいのある仕事であり，大切なことだと思っている。

○医師の指示での計画だけでなく看護婦の判断により計画が立てられる。

○延命・救命よりも残りの人生を意義あるものにし，人間らしく人生を全うしたいという利用者のニーズを基本とした看護を実践すること。

業務に追われる事無く生活の援助ができる（14）

○入所者の表情やレベルなどが改善していく姿を生活を通して見ることができる。

○病院に勤めていた頃は毎日その日の業務に追われて，ゆっくり一人一人のケアについて考え試行している時間がなかったような気がします。施設では人が人らしく生活でき，そして最後まで自立を目的とし，介護する側もされる側もそれなりの努力が報いられているような気がします。そしてそれが私たちの生き甲斐になっているように思います。

○病院ではなかなか出来なかった日中離床，寝食・排泄分離により入所者のレベルが向上していくことでケアの必要性を再確認できた。

治療中心ではなくてケア中心にやっていける（9）

○医療の場と違いケアが中心となってくるので利用者の生活の質の向上につながる。

○看護的対応を第一とするため過剰診療を避けることができる。

○病院ケアと違った対応で，施設にも看護職は必要。

○医師の助手ではなく生活の中にこそ病気も含んだ看護判断が大切になってくると思う。

○治療に依存せず看護（介護）上問題点を解決できることが多くあり，役割を十分発揮できる場所である。

○高齢化社会において病院では不十分な看護・介護ができる施設としての実績を作り上げていくという重要な役割を担っていると思います。

4）さまざまな経験が生かせる

臨床経験を入所者のケアに生かすことができる（35）

○入所者の健康管理はもちろんですが医療機関での経験などを生かし，一人何役にもなれる存在と考えています。

○看護婦の経験キャリアを入所者に対する洞察に向けることができる。

○総合病院での臨床を経験してから施設看護に入ってほしいと思います。

○医療現場での経験を生かし今後ますます専門職として活躍できるところだと思う。

○医学には限界がある。生命にも限界がある。より自然に，その人らしく生きていける援助が出来るので経験を積んだ看護職員が必要である。

○臨床経験をしたアセスメント能力のしっかりした看護職が望まれていると思います。

介護者は経験が浅いため経験のある看護婦が介護者の指導・教育を行える（24）

○介護職の技術の向上。

○どこの施設でも介護福祉士をめざして若い人が大勢介護職についています。その人たちに看護婦が勉強してきたこと，知識，技術を教えて感性豊かな一人前の介護福祉士に育成する義務があると考えます。

○介護職（無資格者）の教育を行う上でも看護福祉士だけではまだ無理だと考える。

5）老人に学べる

自分より人生経験が豊富な老人にいろいろなことを学ぶことができる（2）

○老人保健施設で働くことにより老いた人々から多くのことを学ぶ機会が与えられます。様々な人生を生き今はあらゆるものから自由になった人々の一言は重みがあり教訓となります。いつか自分にも老いが訪れるのだということを実感することができ一日一日を大切に生きなければと思います。多くの喪失を経験し人生の終わりを迎えようとする人々をお世話できることが幸せであるとつくづく感じています。

6）その他

コーディネーター的役割がとれる（31）

○他職種との連携をとりながら，社会福祉資源の活用などトータルなケアーマネージメントを行うこと。

○ケアチームを組む上で，各分野とのつながりを一番多くもっている職種だと思います。

○高齢者の介護支援のための地域ネットワークづくりの一員と考えている。

○職種間の調整役である。

○入所者及び家族を通して地域社会全体に貢献できることに意義があると考えている。

○他のサービス機関とつながりを持つことで自分たちの視野が広がる。

その他（1）

○看護面では総合的な知識を要すると思われるも，病院勤務を長く経験するととけ込めない部分があり職種を意識する傾向にあり，現在のところよい効果は生んでいないと思われる。

3　看護職のスタッフに望むこと

1）チームワークとリーダーシップ

他職種とのチームワーク（96）

○介護職とよりよい関係で（それぞれが専門性を発揮）協働できること。

○報告，連絡，相談が出来る。

○自分は専門職だというプライドばかりを押し出さず，相手の意見の尊重していくことの出来るようなスタッフであって欲しい。

○看護職と介護職の歩み寄りが，いづれは質の高いケアの向上につながっていくのではないでしょうか。

○老人看護の場を魅力ある者にしていくためには看護の役割を明確にし，生活援助を業とする介護との違いを改めて問う必要があると考える。

○介護者と同一ラインで仕事をしている認識を持つ。

○私は看護婦だから介護の人とは違うんだという考えはやめてほしい。

リーダーシップが取れる（33）

○常時医師がいる訳ではないので，急を要する場面においては看護婦の正確な判断，リーダーシップが必要とされています。責任も大きいと思います。

○チームリーダーとなれるように自分を育ててもらいたい。

介護職（有資格者・無資格者）への教育（24）

○介護職スタッフに健康管理面での指導ができる。

○看護職の理想とする介護職を育てることを望む。

介護者の見本になる（5）

○介護者の見本となるように学習してほしい。

○看護の知識を充分に活用し，介護の模範となるようにすること。

2）入所者への配慮

入所者の立場に立った対応が出来る（45）

○主役は入所者。

○老人の視線まで下がって対応してほしい。

○高齢者は弱者であることを忘れない。

○誰もが老いていくことの寂しさむなしさのようなものを受け止めようと努力する姿勢。

○入所者とより多く接することにより身体面のみならず精神面のフォローが出来るように時間を有効利用する。

○その人になにが必要か，何を求めているのかを知ることのできる判断力を身につけること。

明るくて暖かい対応ができる（26）

○明るくて暖かい言葉かけができること。

○個々の入所者に対して深い理解と優しさを持って対応できるスタッフであってほしい。

○誠実で優しい看護をしてほしい。

○老人の気持ちが理解でき入所者に目配り気配りのできる優しい看護婦さんが望まれるように思います。

○入所者に対して優しさと思いやりを持つこと。

○業務に流されず笑顔と優しさで対話を大切にし利用者に生きる勇気と希望を与えるような看護。

入所者，家族のよき相談相手（16）

○お年寄りと目線を合わせて心で話を聴く。

○相談役として対応できるようになってほしい。

○入所者のよき理解者となり相談相手となるように心がけてほしいと思います。

○看護職が他の職種からも入所者・家族からも信頼できる人であってもらいたい。

高齢者を敬う気持ちを忘れないでほしい（14）

○70年，80年生きてこられたお年寄りの人格を尊重して看護に当たる。子ども扱いはしない。

○老人の歩んできた歴史や価値観を理解して接することが必要。

○老人を好きであってほしい。老いの受容。

接遇（4）

○礼儀正しい言葉遣い。

○言葉の悪い人も多い。

一人一人のペースに合わせ，温かく見守る（2）

○一人一人のペースに合わせ軍隊式，メダカ症候群（画一的）にならないようにあたたかく見守ることが大切。

○お年寄り個人を尊重し，そのお年寄りにあったＡＤＬの援助を考えてほしい。無理のない援助で一緒に行うことが大切ではないかと考える。

3）判断力，知識を身につける

異常の早期発見・適切な判断が出来る（38）

○目配り気配りを充分に行い，常に看護の視点から観察を怠らない。

○ちょっとした変化を早くキャッチして対応することが必要だと思う。

○完全な治癒は存在しないのでそれを念頭に入れて現状のレベルを低下しない様認識してもらいたい。

○自分の目と手で確認する。

老人の特性を理解し，老人看護のプロになる（27）

○痴呆老人の接し方など色々勉強して行きたいと思います。

○老人看護，特に痴呆老人に関する理解が乏しい。ケース検討を深めてほしい。

○老人看護を熟知した上で個々の入所者を看てほしい。

幅広い知識を持つ（13）

○在宅医療・在宅福祉の勉強。

○痴呆症が入所者の過半数を占めており，精神科看護の経験があればうまく対処できる。

○精神科の経験がある看護婦が２～３人勤務しておりますので対応には大変助かっています。

○臨床経験が豊かなことに加えてリハビリ訓練，レクリエーションなど出来るような看護職員であって欲しい。

○看護職が社会に目を向けられるようになってもらいたい。

もっとリハビリに参加して入所者のリハビリ効果をあげてほしい。

（精神看護，心理学，社会福祉学，在宅医療，老年医学などの知識が必要との回答が多い）

経験が多い方がいい（11）

○新卒者でなく病院で何年か経験をつみ，老人看護や痴呆老人に興味を持ってケアをしてみたい人に働いてほしい職場です。

○色々な経験をした看護婦が必要，できれば全科を経験してほしい。

○看護婦として多くの疾患に関する経験をしている人を望みます。

○ベテランの看護婦にどんどん転職して質の向上につとめてもらいたい。老人保健施設は病院よりも看護婦の能力が試される場だと思います。

○ブランクのあった人などナースの経験がまちまちであるため全員同じレベルでケアできるようにしていきたい。

緊急時・急変時の対応が出来る（6）

○救急看護を熟知してほしい。

○入所者にいつどんな変化が起こっても対応の出来る看護職者であっていただきたい。

○施設内の事故予防，感染予防。

その他（2）

○レクリエーション活動の意義を理解し，活動の中心になってほしい（5）

○レクリエーション活動の知識を持ちＱＯＬの面で役立ててほしい。

4）老人保健施設の意義や特性を考える

スタッフ自身が老人保健施設の意義・特性を理解して働いてほしい（42）

○看護婦（士）にとって老人保健施設は魅力のない場所に思えるかもしれませんが施設の意義を理解していけば有意義な職場だと思います。そこでスタッフ全員が老人保健施設をよく理解して，やりがいのある仕事だという事を自覚してもらいたいと思います。

○看護職として老人保健施設で働くことの意味をハッキリと自覚して看護介護がお互いに協力し合って施設の特殊性を充分活用して在宅ケアを支援する力となっていただきたい。

○看護婦自身が人間としてどうあらねばならないか問われる，地道であるが看護力の発揮できる領域であることを自覚してほしい。

○病院と老人保健施設の違いを認識する。

○老人保健施設に対する知識と理解不足により，就職しても長続きせずすぐに退職する看護婦もいる。

○老人保健施設で働く看護婦はレベルが低く見られているようですが，病院と違い医師の指示で動くのではなくある程度の判断力が必要なので高い知識と技術が必要だと思います。プライドを持って仕事をしてほしいと思います。

○病院での経験のある看護婦はどうしても病的治療に結びつける傾向にあるが，人生のターミナル期にきた全ての方々が必ずしも病院治療を希望なさるとは思えないため，穏やかに最後を看て差し上げてもよいのではと感じている。

○病院でつとまらなくなった，あるいは自信がなくなったという人が老人保健施設を希望されるが，勤務する以上はもっと老人保健施設を理解してほしい。

医療面ばかりでなく生活援助にも関わってほしい (16)

○入所者のバイタルばかりを気にするのではなく，介護者の中へ入り介護も出来るようにする。

○看護の原点である生活の援助に，もう少しかかわって欲しい。

○医療面だけでなく介護職の役割について十分理解していてほしい。

○生活の場として，かかわりに気を配れたらいいのではと思っています。

○ナースステーションにいるのが看護婦なのではなく率先してベットサイドで入所者のお世話をしていられるような看護ができればと思います。

○看護の原点である療養上の世話を重視し，健康管理・リハビリなどの援助を行ってほしい。

○自分の仕事は医師の介助だとしか考えておらず排泄介助・おむつ交換などに手を出そうとしない看護婦もいる。学生時代から老人保健施設などの実習も必要なのではないだろうか。

在宅療養を視野に入れた指導 (14)

○対象を把握し，適切な退所指導を行う。

○在宅へのステップ教育ができるといい。

○終末期を含めて在宅療養をよりよく継続できるように訪問看護の学習を望みます。

○家庭復帰に向けて家族指導に力を入れて欲しいと思います。

○入所者に対して病院感覚でなく家庭復帰を常に頭に入れてやってほしい。

○在宅生活を視野に入れた本人・家族への指導できる能力をもってほしい。

5）専門職としての意識を高める

専門職としての知識，学習や研究態度を持ち，日々研鑽を続ける (47)

○学習意欲を持ち准看護婦（士）は看護婦の資格を取得しほしい。施設内の勉強会を行い質の向上に努めてほしい。

○看護診断が的確にできるよう努力する。

○看護・介護の知識技術に常に向学心を持って切磋琢磨すること。そして質の高いケアサービスが提供できるようにしてほしい。

○最新の医療技術，看護知識を常に求めることです。

○看護理論が現場で展開できるよう勉強して欲しい。看護過程を理解して欲しい。

ケアプランを用いた看護，介護の実践 (23)

○ケアプラン導入に関してリーダー的な立場に立てればと思います。

○利用者のニーズとサービスの一致が図れるよう，常にケアー目標を持ってアプローチの出来る人。

向上心をもってほしい (31)

○医療の場と違う施設ということでマンネリ化することなく知識の向上に努め，看護婦としてのプライドを持ち続けてほしい。

○病院では医師の指示のもとに業務が行われてきたところが多いが，老人保健施設ではもっと自分たちで考え行動できることを認識してほしい。

○質の高いケアを提供していけるように努めてもらいたい。

○忙しく業務をこなすだけに終わらないで看護婦として介護を考え，本来の看護のあるべき姿を求めていってほしい。

○やりがいのある仕事であることを自覚し責任ある仕事が出来るようにしてほしい。

○自分自身に自信と誇りを持ち続けて職務を遂行していっていただきたい。

○社会や医療，看護状勢を常に把握し，自分たちの職務，将来展望について考え前向きに取り組むこと。

○常に自分を高めることを心がけるスタッフを望みます。

○人と人との関係がそれぞれを成長させることの出来るようなプラス思考の出来る看護職に育ってほしい。

6）その他

自分自身健康管理ができる（7）

○ケアーを提供する者は精神的肉体的に健康であって欲しい。

○職員の健康が第一と考えています。

その他（4）

○入所者を看護するだけでなくある程度の犠牲の精神，人のために尽くすことの大切さを考えてほしいと思う。

○現状のままでよい。

○薬や医療機器に頼るのではなく素手でなおせる看護をめざしていきたい。

○一人の人間として自分を愛することが出来る。